MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

2019. 12. 26　発行元

第 23 号　伊藤　剛

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

はやみねかおる&松原秀行特集

今回はジュニア物ミステリの話。長年、講談社の“青い鳥文庫”を中心に活躍してきた、はやみねかおると松原秀行。本当に、子どもたちを喜ばせようとする思いが一杯に詰まった作品群である。過去の有名なトリックも、工夫された形でストーリーに取り入れられているのが楽しい。

純粋なジュヴナイルの話

今流行りの「ライトノベルス」ではなく、純粋なジュニア物ミステリ、ジュヴナイル。新書版よりほんの少しだけ大きい版の講談社の「青い鳥文庫」もずいぶん歴史を重ねてきた。その中でも、はやみねかおると松原秀行の作品は、大人ものミステリと比べて遜色ない作品ばかりだと感心している。

一応、「小学上級から」と表示してあるが、はやみね作品が角川文庫から再刊されているように、別に「子ども向け」と分類する必要のないことだと思う。「青い鳥文庫」で買うと、総ルビであること、絵がたくさん入っていることが、大人ものの本との違いだと思う程度である。

はやみねかおるの各シリーズ

はやみね作品の中心になる「名探偵夢水清志郎事件ノート」は、１４巻が出た後、「夢水清志郎事件簿」に形を変えて引き継がれている。途中で脇役の子どもたちが入れ替わっている。

また、最近発行の中心になっている「怪盗クイーンシリーズ」も１２巻まで進んだ。こちらはトリックよりはハラハラドキドキの展開の面白さに重点を置いている。

数年前からは「大中小探偵クラブ」もスタートした。一方、講談社ノベルスからは「虹北恭介シリーズ」も出ている。ユーモアたっぷりで、気持ちよく読めるのが、ありがたい。

右上に、一応の『ベスト表』をつけておいたが、あくまでも参考程度の意味合いである。

《はやみねかおるベスト１０》
1. そして五人がいなくなる
2. 消える総生島（そうせいじま）
3. 踊る夜光怪人
4. 亡霊は夜歩く
5. 人形は笑わない
6. 機巧館のかぞえ唄
7. 怪盗クイーンからの予告状
8. 「ミステリー館」へようこそ
9. 卒業～開かずの教室を開けるとき～
１０．虹北恭介の冒険

松原秀行・パスワードシリーズ

松原の「パスワードシリーズ」は、長編が２９冊、短編集が４冊の計３３冊が出ている。

パソコン通信がスタートしたころの設定で始まったので、今読むとパソコン機能の進歩が歴然としている。これでも、当時としては、最新の技術を取り入れたものだった。

それで、シリーズ途中からパソコン通信の占める位置は小さくなり、逆に物語性が増した。それがこのシリーズにとっては良かったのではないかと思う。

シリーズのスタート時からのレギュラー探偵役に加えて、タレントの野原たまみが登場し、その後、イギリスへ行ったりして、ホームズの子孫と共演し、話の幅がどんどん広がった。登場人物の動きが大きく、一人ひとりが生き生きしている。子どもたちに伝わりやすい描き方だ。

シリーズ中に何冊か、純粋のパズル・クイズ本がある。下に一応の「ベスト表」をつけておいた。『パスワードはひ･み･つ』はスタート作品なので記念の１位に置いた。昨年・今年と新刊が出ていない。心配。作者は元気なのだろうか？

《　松原秀行ベスト１０　》
1. パスワードはひ･み･つ
2. パスワード電子猫事件
3. 続パスワードとホームズ４世
4. パスワードで恋をして
5. パスワード忍び里
6. パスワード怪盗ダルジュロス伝
7. パスワード･ダイヤモンド作戦
8. パスワードとホームズ４世
9. パスワード謎旅行
１０．パスワードに気をつけて

乱歩・明智小五郎・少年探偵団シリーズそして怪盗ルパンシリーズ

ある程度年齢の行った人にとっては、学校の図書館のジュニア物ミステリと言うと、江戸川乱歩の『明智小五郎・少年探偵団シリーズ』と南洋一郎訳の『怪盗ルパンシリーズ』を思い浮かべるかもしれない。共に、ポプラ社版である。当時は、本の種類が限られていた時代だった。

学校によっては、現在も日に焼けてしまった背表紙が並んでいることもある。まだ借りる子どもがいるのだろうか。この本の内容が、今の子どもたちの気持ちに寄り沿うものかと言われると、疑問が残る。まあ、年寄りには懐かしい本だと思うけれども。

現在、市立図書館の本棚に並んでいるのは、ポプラ社が江戸川乱歩没後５０年記念で出版したパスティーシュ本。５巻ぐらい出た。現在の有名作家が、昔懐かしい作風を真似て作品作りを手掛けている。元の江戸川乱歩を知らないと面白さは半減するかな？　たちまちに読み終わる。